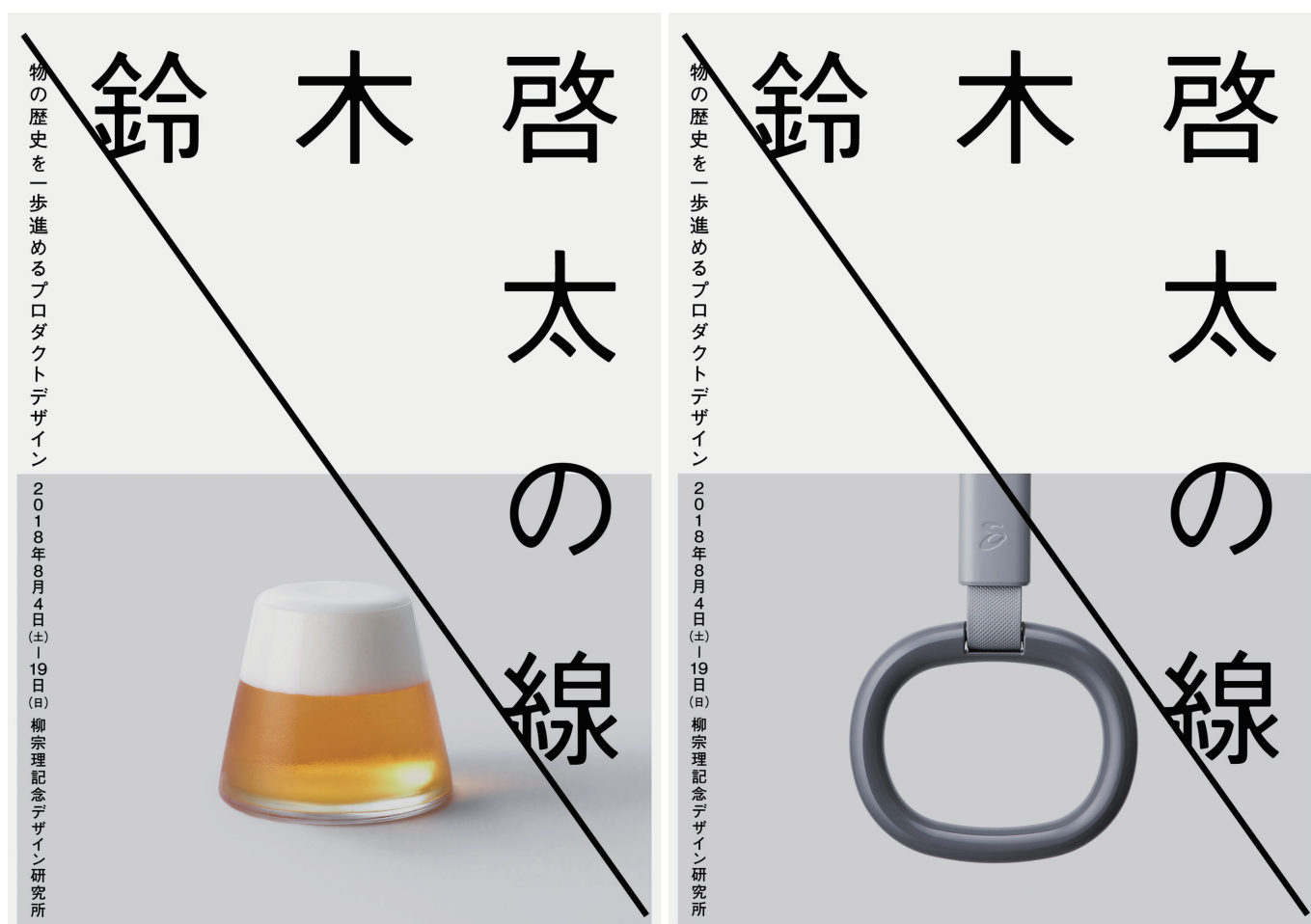


## プロダクトデザイナー・鈴木啓太 初個展開催

会期：2018年8月4日（土）～8月19日（日） 開館時間：午前9時30分から午後5時（日曜休館）

会場：柳宗理記念デザイン研究所（石川県金沢市尾張町 2-12-1）



醤油差しなどの日常ツールから鉄道車両といった公共の大型プロジェクトまで、幅広い領域でデザインを手掛けるプロダクトデザイナーの鈴木啓太が、石川県金沢市にある柳宗理記念デザイン研究所で、初個展「鈴木啓太の線」を開催致します。

日本のプロダクトデザインの礎を築いた柳宗理氏ゆかり柳宗理記念デザイン研究所において、外部のデザイナーの個展を開催することは初めての試みです。

現在、東京を拠点に国内外のクライアントへデザインを提供する鈴木啓太。「美しいデザインは線が強い」と語る鈴木啓太の線は、0.1mm単位での莫大な数のデザイン検討により作られています。

本展では近作の展示に加え、これまであまり語らなかったデザインプロセスや、製品に至るまでの数百の緻密なプロトタイプを展示し、鈴木独自の線が無から紡がれるまでを体験していただけます。

「デザインによって造るのではなく、造ることによってデザインが生まれる」。これは、かつて柳宗理氏がインタビューの中で語った言葉です。鈴木自身が柳宗理氏に共感し共通点として捉えるのは、機能的で美しい普遍的なデザインに仕上げるために、幾度にもわたりモデルを作り、自らの手で形を造り、考える点にあります。柳宗理氏のプロセスに本質的に影響を受けたと語る鈴木は、柳宗理氏と同じように、幼少のころから数々の民芸品や骨董品に触れ、目と手による美意識を培ってきました。さらに鈴木は、柳宗理氏のように日常の生活用品にとどまらず、公共のデザインにも果敢に挑戦し続け、個人が選ぶことのできない公共のデザインこそ、最も機能的で美しいデザインが必要だと語ります。

柳宗理氏が活躍した1964年の東京オリンピックから、デザインにはより社会性が求められていますが、鈴木はデザインの本質は変わっていないと語り、丹念に鉄道車両や吊り革やベンチを作り上げてきました。

異なる時代に生きる、ふたりのデザイナーが追い求めた「形之美」。柳宗理氏のデザインが現代のスタンダードになったように、鈴木もまた次世代のスタンダードを目指してデザインに取り組んでいます。

本展は「線」という造形に不可欠な要素をキーワードに、未来に残るものづくりの現場を紹介します。

## Exhibition Contents

### 「改良を重ねた先に、これしかないという形が見えてくる」

鈴木啓太が語るこの言葉は、彼のデザインへのアプローチを的確に表しています。柳宗理と鈴木啓太の第一の共通点は、機能的で美しい普遍的なデザインをつくりあげるために、何度も何度もモデルをつくり、自らの手で造り整えながら形を考える点にあります。柳のプロセスに本質的に影響を受けたと語る鈴木は、柳と同様、幼少のころから数々の民芸品や骨董品に触れ、目と手による感性を培ってきました。さらに2人の第二の共通点は、日常生活用品にとどまらず、公共のデザインにも果敢に挑戦し続けていることです。その過程では、形のみならず、様々なバックグラウンドを持つユーザーにも配慮しなくてはなりません。個人が選ぶことのできない公共デザインこそ、最も機能的で美しいデザインが必要だと語る2人のデザイナーですが、そのぶんソフト面、ハード面ともにたくさんの改良が不可欠です。そんな苦悩や課題をどう乗り越え、1つのプロダクトの誕生までつなげていくのか。普段公開されることのない貴重な資料や作品モデルをとおして、1本の線が立体的な形となるまでのプロセスを紐解きます。

### 1. 柳宗理の線、鈴木啓太の線

非常にシンプルな機能であるがゆえに、プロダクトデザイナーの個性が最もよく反映されるといわれるグラス。柳宗理と鈴木啓太が各々手掛けたグラスの線からも、彼らがなにを考え、その形へ辿り着いたのかが透けてみえるようです。あえて底面を重くさせた柳の「清酒グラス」、そして薄いガラスに日本の原風景を閉じ込めた鈴木「富士山グラス」。造形美と機能美の両立を目指した2人の思想が線となり形となり、私たちに語りかけてきます。

### 2. 「線を探す」一何百ものモデル制作を超えて

デザインの過程で生まれるものを愉しみ、手を動かしながら理想の形を探り続けた柳宗理。変わっていくプロセスこそ「正直なデザイン」と語った柳の姿勢は、鈴木に多大な影響を与えてきました。3Dプリンターという最新技術を駆使しながらも、手で触れて削り、微調整を繰り返す鈴木。1つのプロダクトを作るまで、何百ものプロトタイプが積み上げられます。試行錯誤の連続ともいえるデザインプロセスを、初公開となる新作のナイフを通じて紹介します。

### 3. 「線を紡ぐ」一積み重ねが個性につながる

柳宗理は近代デザイナーの中でも特に多作であり、手がけたアイテムの多くは今も家庭で使われているものばかりです。アートのように一部の人が所有するのではなく、人々の生活に密着してこそプロダクトデザインの意味がある。鈴木もまた、一般に流通し多くの人を使うことで、次世代のスタンダードとなるデザインを作ることを目標にしています。日用品から公共物まで、これまで鈴木が手がけた様々なプロダクトから、彼のデザインの特徴と未来への視点が垣間見えます。

### 4. 「線を生む」一現場をとらえたドキュメンタリー

24歳の時に柳のオフィスを訪れた鈴木は、柳自身の手によって世界中から集められた膨大な数のプロダクトを見て、彼がどれほどの葛藤をへてデザインを生み出しているかを思い知ったと言います。鈴木もまた様々なプロダクトを蒐集し過去の名作から影響を受け、線を紡いできました。弥生土器から近代作家の工芸品までが並ぶ鈴木「のオフィス」で撮影されたドキュメンタリー映像から、プロダクトが生まれるまでの過程に迫ります。



富士山グラス



相模鉄道 つり革



相模鉄道 20000系



THE 醤油差し



銅の水差し



KOSEN

※右写真は、鈴木啓太の代表作

## 初個展に寄せて

国内外問わず、今のプロダクトデザイナーならば誰しも影響を受けているといっても過言ではない柳宗理さん。そんな彼のデザイン研究所初めてのデザイナーの展示に、僕を選んでいただきとても嬉しく思っています。

実は、24歳の時にこちらのデザイン事務所にお邪魔したことがあります。その時に、柳さんの作品模型や彼の手によって世界中から集められた膨大な数のプロダクトを見て、彼がどれだけの葛藤や試行錯誤をへてデザインを生み出しているかを思い知りました。当時のデザイナーには珍しく、とにかく多作で、美しく機能的なデザインを社会に広めていった柳さん。日用品から公共物まで手がける僕にとっては、「たくさん作って自分の形を探せ」と激励されているような気がします。

鈴木啓太

### 鈴木啓太（プロダクトデザイナー）

プロダクトデザイナー。1982年生まれ。多摩美術大学プロダクトデザイン専攻卒業。2012年 PRODUCT DESIGN CENTER 設立。祖父の影響で幼少より骨董に興味を持ち、ものづくりをはじめ。物の歴史を一步進める「堅実な革新」をテーマに幅広い領域でプロジェクトを手がける。2015年『サンティエンヌ国際デザインビエンナーレ』招待作家。2016年『HUBLLOT DESIGN PRIZE 2016』ファイナリスト（アジア人初）。金沢美術工芸大学客員教授。グッドデザイン賞最年少審査委員。これまでの代表作「富士山グラス」「相模鉄道 20000 系」などがある。

#### 《受賞歴》

ボンベイサファイア アートオブマティーニ 2006 グランプリ（日本 / イギリス）

グッドデザイン賞（日本）

iF プロダクトデザインアワード（ドイツ）

レッド・ドット・デザインアワード（ドイツ）

東京ミッドタウンアワード（日本）

ロンドン・インターナショナルデザインアワード 2015（イギリス）

D & AD 2016 グラファイト・ペンシル（イギリス）

One Show 2016（イギリス）

ウプロ デザインプライズ 2016 ファイナリスト（スイス）



## Exhibition Outline

タイトル：「鈴木啓太の線」

会期：2018年8月4日（土）～19日（日）

開館時間：午前9時30分から午後5時

休館日：毎週月曜（但し月曜が祝日のときは開所）

会場：柳宗理記念デザイン研究所（石川県金沢市尾張町 2-12-1）

観覧料：無料

主催：金沢美術工芸大学、PRODUCT DESIGN CENTER

グラフィックデザイン：村上雅士（m）

映像制作：鈴木将也

写真撮影：長谷川健太（OFF）

施工：スタンドアドサービス株式会社

会場構成：PRODUCT DESIGN CENTER

展示モデル制作：廣村沙也加（PRODUCT DESIGN CENTER）

制作進行：大長将之（PRODUCT DESIGN CENTER）

<http://www.suzukikeitanosen.info/>

#### トークショー 1.「線がうまれる時」

日時：2018年8月5日（日）13:00 - 14:00

会場：柳宗理記念デザイン研究所 二階

#### トークショー 2.「鈴木啓太の線」

日時：2018年8月12日（日）13:00 - 14:00

会場：柳宗理記念デザイン研究所 二階

お申込みは下記のページ上のフォームよりお申込み下さい。

<http://www.suzukikeitanosen.info/>

本件に関するご取材、商品及び画像のお貸し出しに関するお問合せは、下記までご連絡くださいますようお願い致します。

#### 【PRESS CONTACT】

デイリープレス 担当：山本真澄 e-mail. [masumiyamamoto@dailypress.org](mailto:masumiyamamoto@dailypress.org) tel. 03-6416-3201 mob. 090-4062-6361